

## 医療・福祉系大学におけるブリッジ教育 —医学用語の導入をめぐる—

川崎医療短期大学 一般教養

橋本美香・名木田恵理子

(平成22年9月30日受理)

Necessity of Medically Related Kanji Instruction to Healthcare Students in Introductory Education

Mika HASHIMOTO and Eriko NAGITA

*Department of General Education, Kawasaki College of Allied Health Professions*

*316 Matsushima, Kurashiki, Okayama, 701-0192, Japan*

*(Received on September 30, 2010)*

### 概 要

K短期大学では、入学時のプレースメントテストを実施している。この結果から、中学生レベルの語彙力しかない学生が経年的に存在することが明らかになっている。これらの学生は、医学用語について、漢字を読むことができない、講義の内容が理解できないという問題を初年次に抱えている。医学用語の読みが初年次の学生にとって難解であることはすでに医学用語のパイロットテストによって明らかになっている。このような状況の中で、いかにして医療・福祉系大学及び短期大学におけるブリッジ教育として医学用語の漢字導入を行うかについて検討した。

その結果、まず医学用語で用いる常用外漢字があること、次に常用漢字のうち未習の読み方があること、さらに医学用語に特有の読み方や意味が存在することについて、留意する必要があることが明らかになった。そのため、これらの点について導入を行うことによって、漢字力・語彙力がない学生にも医学に関する専門領域を学ぶ上での障害が取り除かれると考える。これらの医学用語に関する漢字について、円滑に導入するためのテキスト作成などを行うことを今後の課題とする。

キーワード：医学用語，常用漢字，常用外漢字，ブリッジ教育

### Abstract

The results of Japanese placement tests administered to new students of K College annually have shown about one fourth of these students to have only junior high school vocabulary levels of Japanese. Our investigations done at K University in 2007 and 2008 suggest that healthcare students have insufficient ability to read medical kanji. These results also indicate that a considerable number of students have difficulty in understanding textbooks and lectures, and especially ones concerning medically related subjects.

In order for them to achieve smooth and effective learning in such major subjects, we recognize the importance of introducing kanji reading instruction as a bridge. Our discussion regarding how to introduce such instruction has made clear the following points concerning student difficulties; 1) many medical terms are composed of joyogai-kanji, 2) students don't know

any other readings of joyo-kanji they have already learned, 3) some kanji for medical words have unique readings and meanings.

Therefore, in studying medically related subjects, further study of the reading of kanji would be a great help to healthcare students, especially those without enough Japanese vocabulary. With a view to make kanji instruction more effective, editing of a specialized textbook for medically related kanji seems necessary.

**Key words:** medical terms, joyo-kanji, joyogai-kanji, introductory education

## 1. はじめに

現在、川崎医療短期大学では一年次前期に、全学科対象の「日本語」が4コマ開講されている。その中の単科開講されている1コマについては、日本語プレースメントテストの結果によってレベル別にクラス編成をしている。そこでの下位クラスの学生にヒアリングを実施した結果、医学用語について、漢字を読むことができない、講義の中で話している内容が理解できないという問題を抱えていることが明らかになった。医学用語の漢字の読みの力が不足していることについては、国語力の低い学生に限らず、多くの学生に見られることであることを、すでに医学用語のパイロットテストによって示している<sup>1)</sup>。

このような状況の中で、専門教育を円滑に進めていくために、まず漢字について理解させることが必要であると考えられる。

そこで、本研究では、漢字教育の現状と、医学用語と漢字能力の関係を示した上で、医療・福祉系大学及び短期大学におけるブリッジ教育としての医学用語の漢字導入をどのように行うかについて検討することにする。

## 2. 漢字教育の現状

日本漢字能力検定が平成17年度に実施した「漢字能力調査」<sup>2)</sup>によると、大学新1年生の6割が常用漢字を習得できていないとされている。このような漢字能力の低下は、現在も続い

ていると推測できる。さらに、国立教育政策研究所が行った「国語総合」に関する調査<sup>3)</sup>において、常用漢字を書くことや、読むことについて、平成14年度、平成16年度の調査結果に比べ、平成17年度は肯定的な回答が減少しており、国語の学習への関心・意欲を高める指導が求められることが提言されている。日本語の語彙の6割～7割は漢字が占めているが、語彙力については、川崎医療短期大学で実施した日本語プレースメントテストの結果より、中学生レベルの語彙力しかない学生が実際に入学していることが明らかになっている<sup>4, 5)</sup>。

このような漢字能力や語彙力では、漢語が多い医学用語や、大学における開講科目の教科書の内容を十分に理解できない、あるいは、実習での現場の観察・感想・意見が書けないということは容易に想像できる。「語彙力＝思考力＝情緒力」とすでに定義されていることから<sup>6)</sup>漢字能力は大学教育においても重要なものであると言えよう。

## 3. 医学用語と漢字能力

専門用語の理解における漢字の具体的な役割には、漢字の意味づけの機能がある<sup>7)</sup>。これは専門的な概念をあらわす専門用語においては、とくに重要なものであり専門用語を知る手がかりになるものである<sup>8)</sup>。しかし、実際には先に述べたように常用漢字について、大学生の6割が習得できていないのである。このため、医

療・福祉系大学においては医学用語で用いる漢字の導入が、医療・福祉系の専門教育に対するブリッジ教育として意味をなすものであると考える。

医学用語について、医療・福祉分野を専攻する留学生を対象とした専門用語の漢字授業において、注目すべき結果が示されている<sup>9)</sup>。これは、医療・福祉分野の専門用語の出現傾向に基づく学習漢字を選定し、授業に参加した留学生を処遇群、医療・福祉を専攻する日本人学生をコントロール群とし、両群に対してプレテストとポストテストを実施した調査である。この結果、専門用語に必要な漢字を大学で学んでいない日本人学生よりも、留学生のほうが、平均点が高い結果となっている。さらに留学生はプレテストとポストテストでは、30点満点のテストにおいて23点の伸びを示している（プレテスト6.0点/ポストテスト29.0点）。一方、日本人学生については、プレテストとポストテストでは1.4点しか伸びていない（プレテスト22.3点/ポストテスト23.7点）。このことは、日本人学生についても専門用語に関する漢字の導入を必要とすることを裏付けていると言えよう。

当然のことながら、留学生と日本人では学習環境が違う。留学生に関しては、漢字語圏以外の学生のことも考慮して導入が行われる。一方、日本人学生に関しては、小学校1年生から常用漢字の教育を受けている。そのため、日本人学生にとって平易であり、復習をする必要のない漢字もある。したがって、日本人学生の教育歴に則した漢字の選定、および導入が必要であると考える。

#### 4. 医学用語の問題点

##### (1) 常用漢字の制限の余波

医学用語の問題点については、常用漢字による漢字制限の余波として、すでに問題視されている<sup>10)</sup>。日本語における表記法の揺れについて

は、1)カタカナ表記と漢字表記の混在、2)仮名表記と漢字表記の混在、3)漢字の異字体と正字の混在、4)漢字の略字と正字の混在、5)同音異義語による置き換えという問題点があるとされている<sup>11)</sup>。

##### (2) 学術用語における漢字の変遷

医学用語の中でブリッジ教育が必要になる最大の要因は、常用外漢字の運用が必要であることがあげられる。高等学校においては、常用外漢字は平仮名もしくは、振り仮名が付されていた。これに対して、大学で用いる医学用語の掲載されているテキストには、常用外漢字に振り仮名が付されず一般的に用いられているのである。

学術用語については、学術審議会学術用語分科会において、漢字・仮名遣い・送り仮名・外来語の表記やその他の表記に関しては、内閣告示またはしかるべき基準に従うものとされている。特に漢字に関しては「漢字は『常用漢字』（昭和56年10月1日 内閣告示第1号）によること」と定められている。医学用語に関しては、平成12年2月に 第16期学術審議会（第98回）総会において「学術用語（医学）の制定・普及について」の答申が行われ、制定用語が『学術用語集医学編』<sup>12)</sup>として、2003年に編集・刊行されることになった。これによれば、医学用語において、常用外漢字で使いたいものとして、用語にそのまま用いたものが266字、さらに制定用語ではないが、用語を仮名書きにすると分かりにくい場合に、その漢字を括弧【 】に入れて付記したものの33字がある。

また、日本医学会医学用語管理委員会は、「医学用語の標準化をめざして—『日本医学会医学用語辞典（英和）第3版の編集方針—』<sup>13)</sup>において、国語審議会が作成し、平成12年文部科学省に答申した常用漢字以外の漢字1022字のうち、医学用語でよく使われる漢字を39字選定している。これに加えてJIS漢字を18字選定し

ている。この他に、医学で用いる漢字には、康熙字典に収載されているが、JIS漢字に存在しないもの、医学では使われるが医学以外のジャンルでは存在しない作られた漢字もみられる。

### (3) 常用漢字の問題点

すでに報告しているように<sup>14)</sup>、常用漢字でも読めない医学用語は多く存在する。この要因として、以下のことが考えられる。

#### 1) 音読みが定着していないため訓読みを行う

(例)・[灰:カイ] (誤用例) 灰白質: はい  
はくしつ

・[肩:ケン] (誤用例) 肩峰: かたみ  
ね

\*下線は訓読みによる誤読

#### 2) 音読みが二つある

(例)・[病:ビョウ・ヘイ] (誤用例) 疾病:  
しつびょう

・[悪:アク・オ] (誤用例) 悪心: あく  
しん

#### 3) 医学用語で用いる音読みが常用漢字に含まれない

(例)・[壊:エ] (誤用例) 壊死: かい  
し

・[泌:ヒ・ヒツ] 分泌は「ぶんび」の  
読みのみ

### (4) 常用外の漢字の問題点

常用外の漢字を理解する上で問題となる点は、「線」と「緘」のように、専門用語で扱う漢字が医学だけ異なるものや、「頸」と「頸」のように旧字と正字の混在がすでに指摘されていた<sup>15)</sup>。この他にも、以下の問題点が挙げられる。

#### 1) 音読みが二つあるもの

(例)・[臍:セイ・サイ]  
・[塞:サイ・ソク]

#### 2) 医学用語独自の意味があるもの

(例)「顆」は漢和辞典には、粒・塊以外の意味は掲載されていない。骨の端の丸い関節表面の意味はない。

#### 3) 漢字辞典に読み方の記載がないもの

(例)「喘」は「ゼン」はあるが「ゼイ」はない。

#### 4) 漢和辞典に読み方の掲載がないもの

(例)「橈:トウ」は一般的な辞書では「ドウ」「ジョウ」のみであり、「トウ」の記載がみられない辞書がある。

(5) 常用漢字・常用外漢字ともに問題となる点  
常用漢字と常用外漢字に共通して現れる問題点について、以下のような読みの問題がある。

#### 1) 同じ音読みを有する

(例)「脾」と「腓」  
「穿」と「尖」  
「趾」と「肢」

#### 2) 同じ音読みを有する

(例)「肝」と「胆」  
「喉」と「咽」

### (6) 常用漢字の追加

2010年5月7日に文化審議会答申により「改定常用漢字表」が出された。追加された漢字の中には、医学用語で用いられている常用外漢字もみられる。今後、追加された常用漢字を学習している学生と、学習していない学生の混在が推測できる。

次頁の表1に『学術用語集医学編』<sup>16)</sup>、「医学用語の標準化をめざして—『日本医学会医学用語辞典(英和)』第3版の編集方針—」<sup>17)</sup>に示されている医学で用いる漢字との対照を示す。この表から、すべてが重複しているわけではなく、それぞれの視点によって選定漢字が異なっていることが分かる。

## 5. 医学用語導入の方策

以上のような問題点から、医学用語に用いられている漢字を導入するにあたって、次の点に留意する必要があると考える。

- (1) 医学用語で用いる常用外漢字があること
- (2) 常用漢字のうち、未習の読み方があること

「改定常用漢字表」・『学術用語集医学編』・『日本医学会医学用語辞典(英和)』編集方針の対照表

	漢字	音読み	改定常用漢字表	学術用語集医学編	日本医学会医学用語辞典		漢字	音読み	改定常用漢字表	学術用語集医学編	日本医学会医学用語辞典
1	萎	イ	○	○		54	煎	セン	○	○	
2	咽	イン・エン	○	○	○	55	腺	セン	○	○	○
3	淫	イン	○	○		56	癰	セン		○	○
4	孟	ウ		○	○	57	爪	ソウ	○	○	
5	鬱	ウツ	○		○	58	瘡	ソウ		○	○
6	腋	エキ		○	○	59	塞	ソク・サイ	○	○	
7	嚔	エン		○	○	60	唾	ダ	○	○	
8	呕(嘔)	オウ		○	○	61	腿	タイ		○	○
9	痂	カ		○	○	62	脛(脛)	チツ		○	○
10	牙	ガ	○	○		63	肘	チュウ	○	○	
11	疥	カイ		○	○	64	椎	ツイ	○	○	
12	潰	カイ	○	○		65	溺	デキ	○	○	
13	蓋	ガイ	○	○		66	填	テン	○	○	
14	顎	ガク	○	○		67	妬	ト	○	○	
15	葛	カツ	○	○		68	疼	トウ		○	○
16	韓	カン	○	○		69	桃(桃)	トウ		○	○
17	癌	ガン	○	○		70	瞳	ドウ	○	○	○
18	亀	キ	○	○		71	頓	トン	○	○	
19	臼	キュウ	○	○		72	捻	ネン	○	○	
20	嗅	キュウ	○	○		73	囊(囊)	ノウ		○	○
21	頬	キョウ	○	○		74	剥	ハク	○	○	
22	脛(脛)	ケイ		○	○	75	汎	ハン	○	○	
23	頸(頸)	ケイ		○	○	76	斑	ハン	○	○	
24	稽	ケイ	○	○		77	腓	ヒ		○	○
25	隙	ゲキ	○	○		78	脾	ヒ		○	○
26	腱	ケン		○	○	79	蔽	ヘイ	○	○	
27	脛(脛)	ケン		○	○	80	餅	ヘイ	○	○	
28	股	コ	○	○	○	81	哺	ホ	○	○	
29	勾	コウ	○	○		82	疱	ホウ		○	○
30	虹	コウ	○	○		83	蜂	ホウ	○	○	
31	胱	コウ		○	○	84	膀	ボウ		○	○
32	梗	コウ	○	○		85	貌	ボウ	○	○	
33	喉	コウ	○	○	○	86	勃	ボツ	○	○	
34	痕	コン	○	○		87	痒	ヨウ		○	○
35	挫	ザ	○	○		88	瘍	ヨウ	○	○	
36	瘞	ザ		○	○	89	瘻	ロウ		○	○
37	采	サイ	○	○		90	癩	カン		○	○
38	臍(臍)	サイ		○	○	91	糠	コウ		○	○
39	趾	シ		○	○	92	癩	セツ		○	○
40	痔	ジ		○	○	93	瘦	ソウ	○	○	○
41	嫉	シツ	○	○		94	胝	チ		○	○
42	膝	シツ	○	○		95	枇	ヒ		○	○
43	腫	シュ	○	○	○	96	癰	ヨウ		○	○
44	羞	シュウ	○	○		97	羸	ルイ		○	○
45	睫	ショウ		○	○						
46	褥	ジョク		○	○						
47	疹	シン		○	○						
48	韌(韌)	ジン		○	○						
49	腎	ジン	○	○							
50	須	ス	○	○							
51	膳	スイ		○	○						
52	醒	セイ	○	○							
53	脊	セキ	○	○							

と

- (3) 医学用語に特有の読み方や意味があること
- (4) 旧字が混じっていること
- (5) 医学用語特有の読み方で、辞書に記載がないものがあること
- (6) 医学用語の熟語は、基本的には音読みであること
- (7) 同音異義語が多いこと
- (8) 常用漢字に追加された漢字があること

これらの留意点が存在することから、医学用語の導入教育によって、医療・福祉系の専門科目に対するブリッジ教育の必要性があると考えられる。特に常用漢字であっても、常用外の読み方がある漢字や、漢和辞典に掲載のない読み方・漢字については注意を払わせなければならない。さらに、常用外漢字の中で、新たに常用漢字に組み入れられた漢字についても、高校までの導入が始まるのが2012年であるのため、当面の間、大学での導入が必要である。

以上のことから、先の(1)～(8)の留意点について、効果的に導入する必要がある。そのためには、医学用語に特化したテキスト等があることが好ましいと考える。現在、先に挙げた医学用語の問題点の例の漢字を中心に、常用漢字と常用外漢字を合わせて100字のサンプル冊子を作成している。今回必要であることが明らかになった(1)～(8)を念頭に置き、さらに、表1で明らかになった医学用語の漢字を網羅したテキストの作成、加えてそれに連動した問題集を作成し、効果的な導入のカリキュラム作成を行うことを今後の課題としたい。

補足ではあるが、医学用語の一般の人に対する分かりにくさを問題とし、国立国語研究所は「病院の言葉」を分かりやすくする提案をしている<sup>18)</sup>。それは、医療の分野において、医療者は十分に説明をし、患者は説明を理解し納得した上で、自らの医療を選ぶことが求められてい

るという現状があるからである。しかし、医療者の説明に出てくる言葉が分かりにくいことが、患者の理解や判断の障害になっているのである。この提案の中で、「病院の言葉」のわかりにくさの種類を以下のように示している。それは、「類型A：日常語で言い換える」、「類型B：明確に説明する」、「類型C：の重要で新しい概念を普及させる」という3つである。特に、「類型A：日常語で言い換える」ことについては、さらに3つに細分化されている。中でも「正しい意味を説明する」ことや「混同を避ける」ためには、それぞれの漢字の持つ意味を説明することは効果的であると言える。

この場合、注意しなければならないのは、医学用語としては一般的であるが、専門的な知識を持っていない人にとっては、全く認識のない範疇が含まれることも念頭においておくことである。医学用語の導入教育によって、一般的な漢字と医学用語の違いを明確に認識することは、このような認識の齟齬を解消するためにも有効なものとなるだろう。

#### 参考文献

- 1) 橋本美香, 名木田恵理子, 田中伸代, 板谷道信: 医療系大学生における医学用語の読み方に関する調査, 川崎医学会誌一般教養篇35: 27-33, 2009
- 2) 財団法人日本漢字能力検定協会: 2005年『漢字能力調査』結果の概要, 2005  
<http://www.kanken.or.jp/what/topics/050825.pdf>
- 3) 国立教育政策研究所: 平成17年度高等学校教育課程実施状況調査—教科・科目別分析と問題点(国語・国語総合), 2007  
[http://www.nier.go.jp/kaihatsu/katei\\_h17\\_h/index.htm](http://www.nier.go.jp/kaihatsu/katei_h17_h/index.htm),
- 4) 橋本美香, 山口恒夫, 下田健治, 大高正憲: 川崎医療短期大学における「日本語プレース

- メントテスト」の実施結果，川崎医療短期大学紀要28：19-35，2008
- 5) 橋本美香，山口恒夫，兵藤文則：川崎医療短期大学における「日本語プレースメントテスト」の実施結果（第2報），川崎医療短期大学紀要29：1-5，2009
  - 6) 藤原雅彦：「漢字調査」に対するオピニオン  
①，財団法人日本漢字能力検定協会「2005年『漢字能力調査』結果の概要」，2005  
<http://www.kanken.or.jp/what/topics/050825.pdf>
  - 7) 国立国語研究所：国立国語研究報告68専門語の諸問題，1981，72-82，東京，秀英出版
  - 8) 石井正彦：専門用語の実態と漢字「漢字講座第10巻 現代生活と漢字」，1989，東京，明治書院，pp226-249
  - 9) 石鍋浩：医療・福祉分野を専攻する留学生のための専門用語の漢字授業の実践，茨城大学留学生センター紀要6：1-11，2008
  - 10) 小川徳雄：学際的な学会で使用する用語はどうあるべきか，日本生気象学会誌41-4：155-162，2004
  - 11) 日本医学会医学用語管理委員会：医学用語の標準化をめざして—「日本医学会医学用語辞典（英和）」第3版の編集方針—，日本医学会雑誌136-1：139-148，2007
  - 12) 文部科学省・日本医学会：学術用語集 医学編，東京，独立行政法人日本学術振興会，2003
  - 13) 前掲11)
  - 14) 前掲1)
  - 15) 前掲11)
  - 16) 前掲12)
  - 17) 前掲11)
  - 18) 国立国語研究所「病院の言葉」委員会編著：病院の言葉を分かりやすく—工夫の提案—，東京，勁草書房，2009，ppxi-xxv